

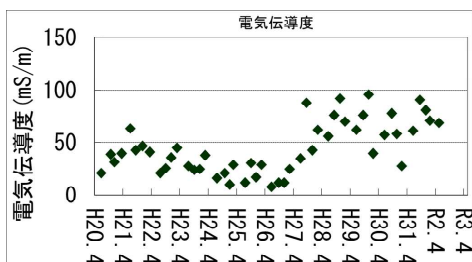
No.1-1井戸における電気伝導度の 上昇について

～旧処分場との関連性についての考察～
(平成30年6月第24回連絡協議会報告資料
抜粋)

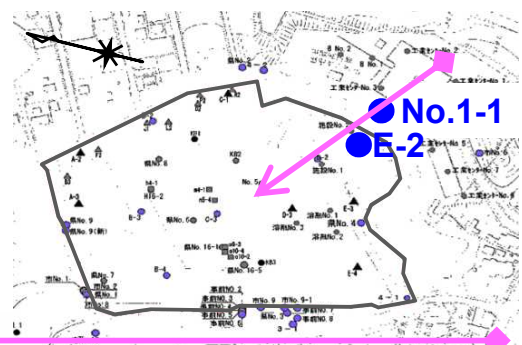
令和2年(2020年)8月27日

No.1-1井戸における電気伝導度の上昇について

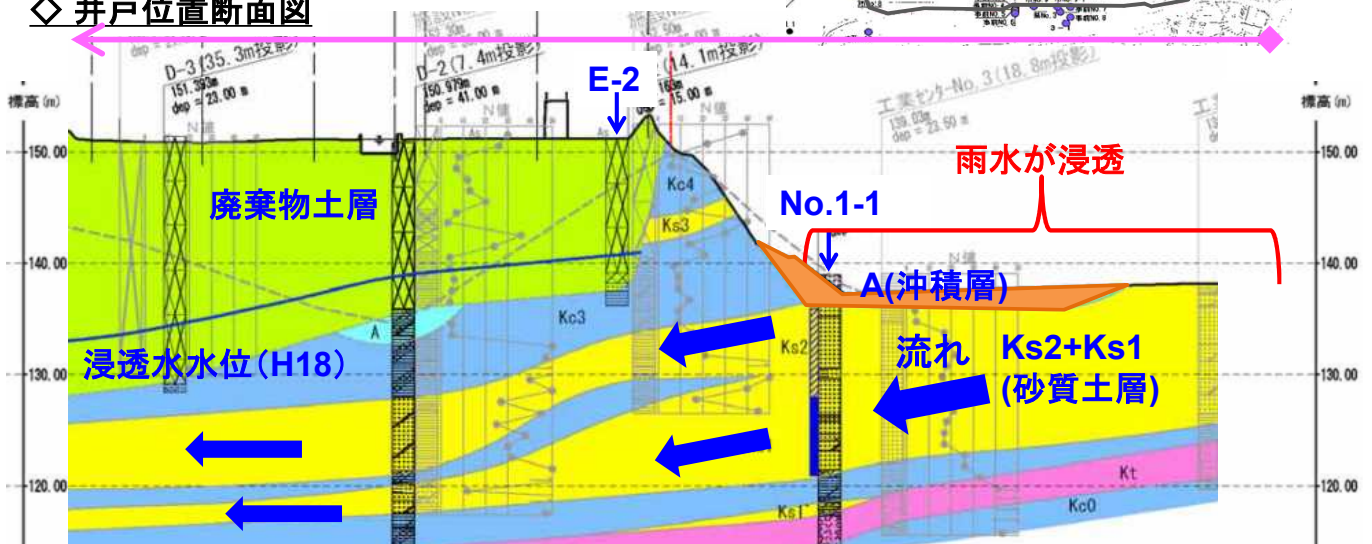
◇ 電気伝導度の推移



◇ 井戸位置平面図



◇ 井戸位置断面図

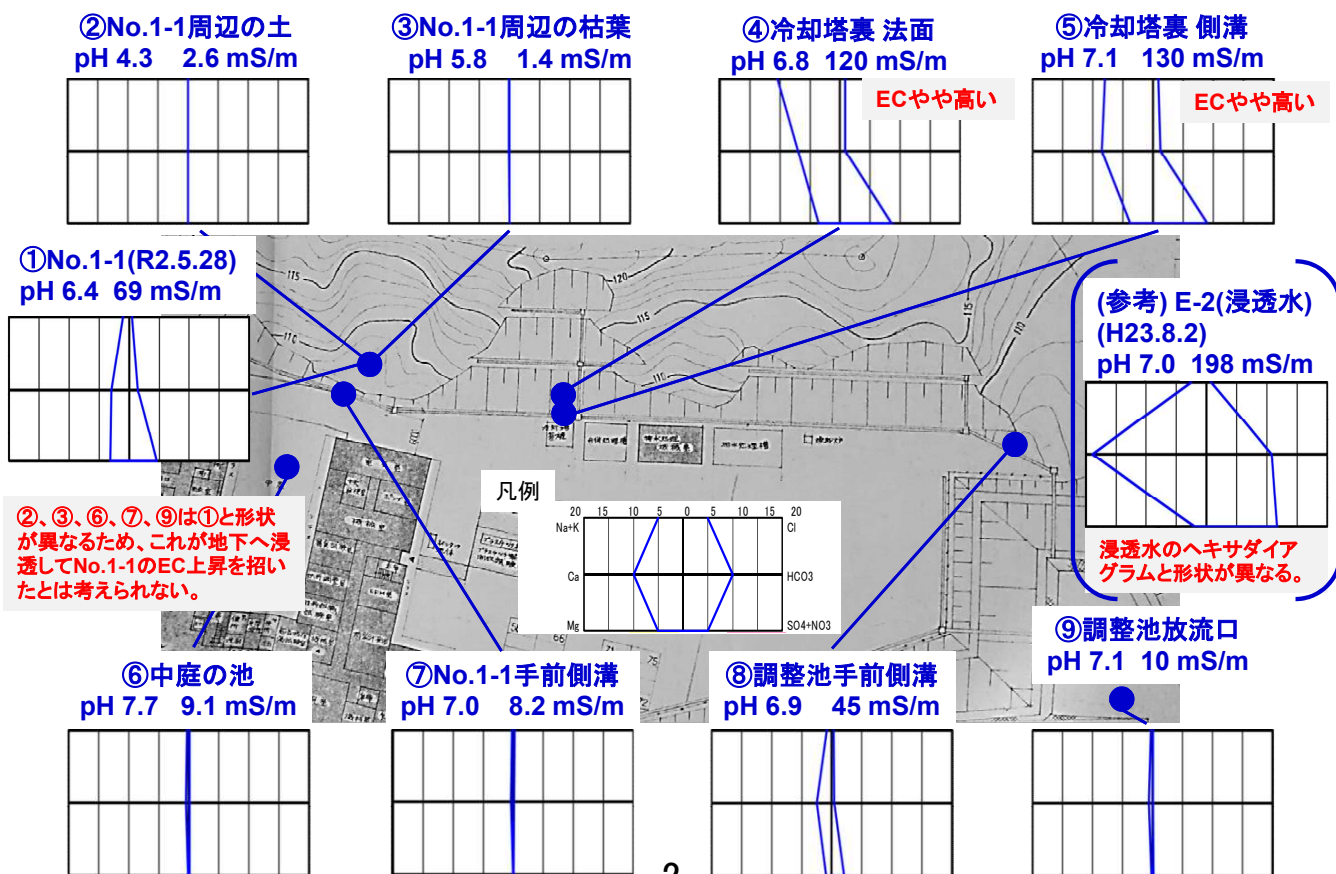


実施した調査内容とその結果について(補足・今回作成)

調査名	内容	結果
土壌EC調査 (H30.3調査)	No.1-1周辺一帯の表層土壌の電気伝導度を測定した。	・全ての地点で21ms/m以下であり、No.1-1の電気伝導度より大幅に低かった。 →No.1-1周辺の表層土壌の汚染はないと考えられる。
ヘキサダイアグラム(イオン組成)の比較 (H30.3調査)	No.1-1、場内浸透水(H23年度調査)およびNo.1-1の周辺表流水等のヘキサダイアグラム(イオン組成)を比較した。	・浸透水と相似形を示す地点はなかった。 →浸透水の影響はないものと考えられる。 ・No.1-1の周辺表流水等の中のいくつかの地点でNo.1-1と相似形を示す地点があった。 →また、No.1-1と周辺表流水等は共通の原因から影響を受けている可能性がある。
水位・水質連続モニタリング (H28.10～調査)	No.1-1井戸内に水位・水質を連続モニタリングする装置を設置して記録している。	・水位は大雨後に高くなる。 ・電気伝導度は降雨の際に上昇する。
下草状況調査 (H30.5調査)	No.1-1周辺一帯の植生状況を調査した。	・全体的にササが多く繁茂していた他、シダ、フキ、ジャノヒゲ、低木が繁茂していた箇所もあった。 ・広範囲に枯死が見られる箇所はない。 →植物が枯死するようなECの影響はない。

ヘキサダイアグラムの比較について

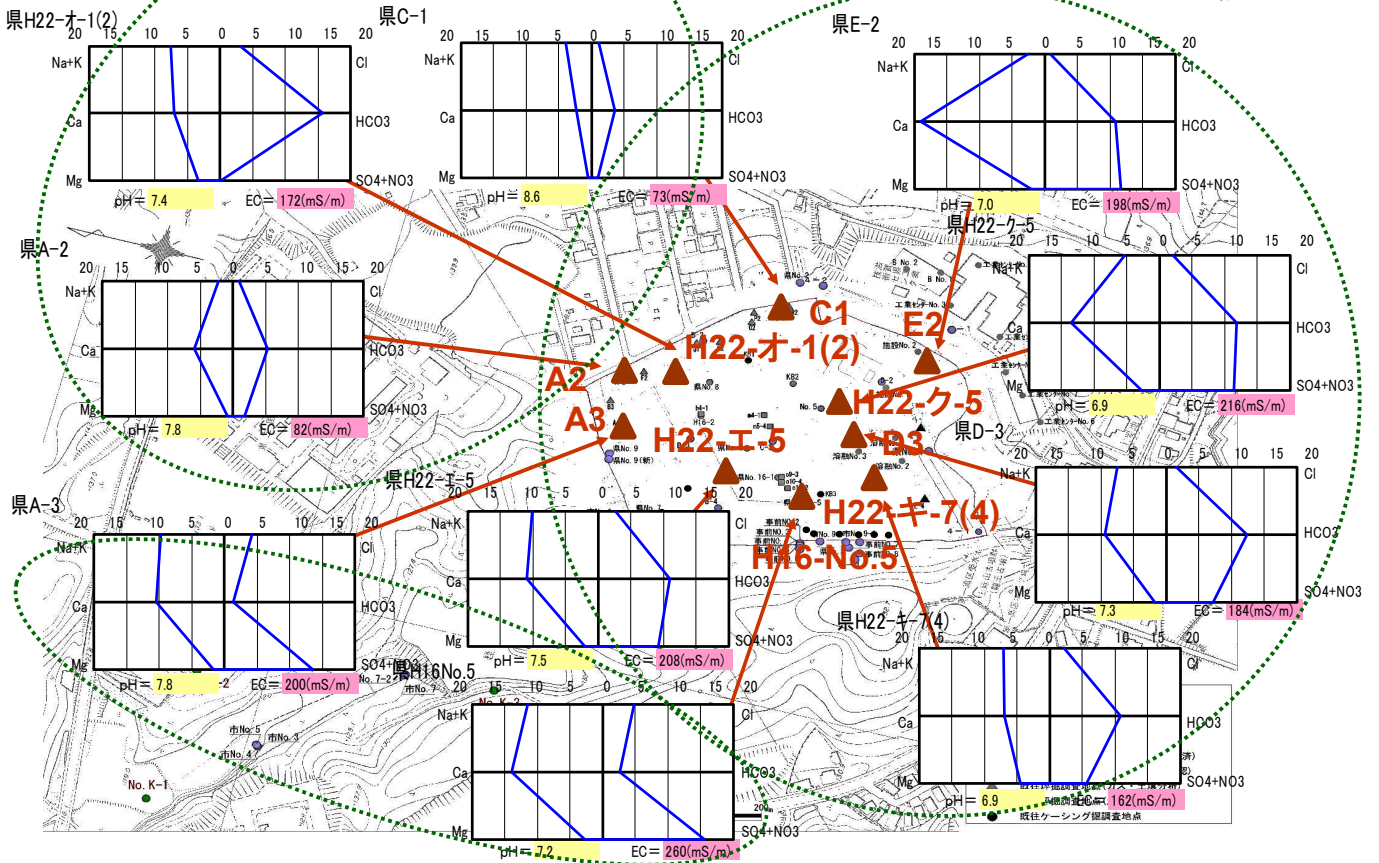
◇ ヘキサダイアグラム(H30.3.13)



浸透水のヘキサダイアグラムについて(補足・今回作成)

◇ ヘキサダイアグラム(H23年度)

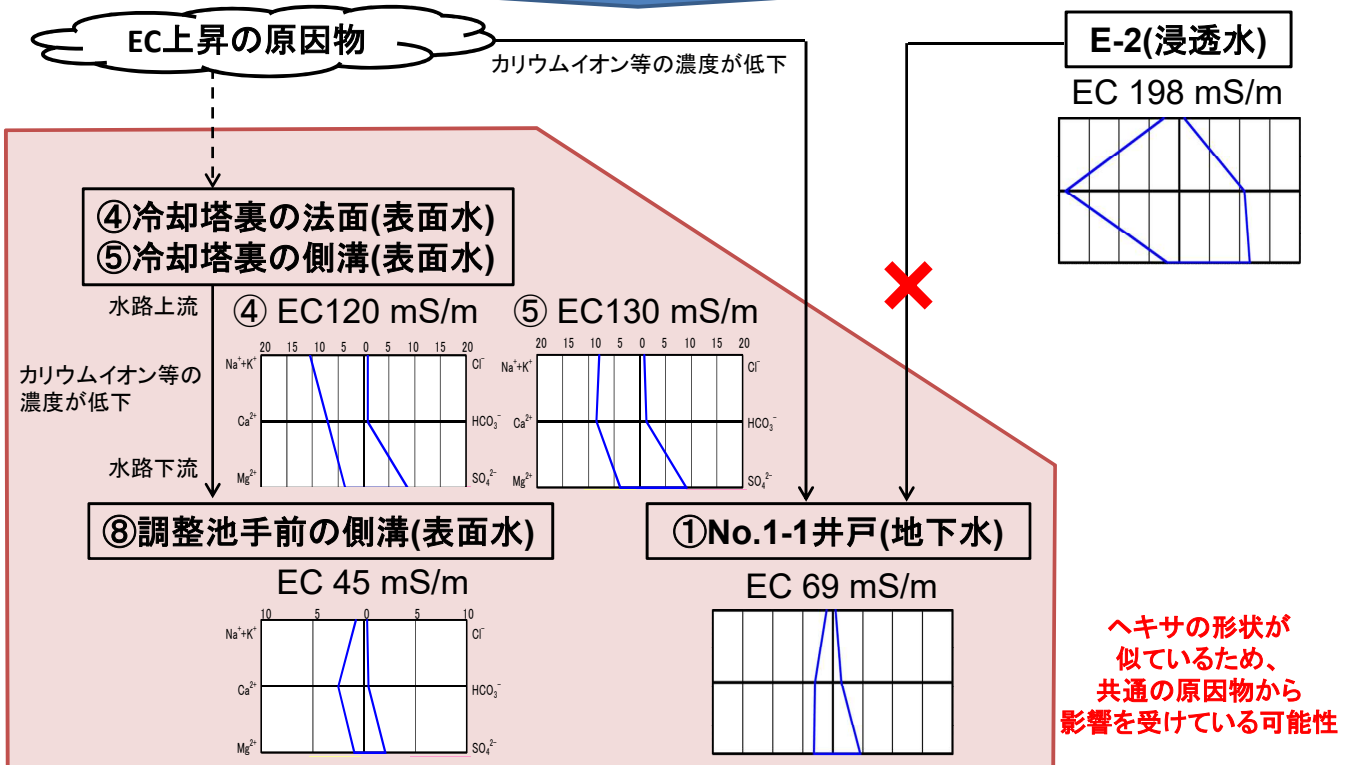
▲ 浸透水



No.1-1井戸EC上昇モデルについて

降雨の影響

大雨後に低下。
数日後に上昇。



まとめ

- ・表層土壌EC調査の結果は、全ての地点で21 mS/m以下の値であり、No.1-1の電気伝導度より大幅に低かった。また、下草状況調査の結果、No.1-1井戸の周辺で植生に異常は見られなかった。これらのことから浸透水によるNo.1-1井戸周辺の表層土壌の汚染はないと考えられる。
- ・ヘキサダイアグラム（イオン組成）の形状から、最も近い処分場内井戸（E-2）の浸透水と相似形を示す地点はなく、浸透水の影響はないものと考えられる。